

外務大臣賞・会場審査員賞

「ソコ、読まな！」
ヨウ ロ (楊 璐)
Ms. Yang Lu
(中国・会社員)

中国吉林省出身。日本の大学を卒業後、大阪の会社で失敗しながら、学び知った日本の魅力について、今まで日本でご指導くださった方々への感謝を込めたスピーチです。



「楊さん！ソコ、読まな！」

これは私が、島根の大学を卒業して、大阪の会社に就職してすぐに覚えた大阪弁です。

もし、会社で先輩に「こどこだと思っているの！」と言われて、「ここは会社ですけど…」と答えたらどうです？先輩の怒りの炎に油を注いでいるようなものですよ。

皆さん、信じられないかもしれませんが、日本語に慣れていない外国人には「こどこだと思っているの！」は「ここはどこですか？」と同じ、ただ場所を聞く質問に聞こえることもあるんです。

でも皆さん、答えはそうじゃないですよ。私は、まずソコが読めませんでした。

同期入社日本人がすんなり出来ることでも、私は何をやるにもいちいちひっかかって、先輩の手間を増やしました。

化粧しないで顔色が悪いことを注意されたかと思うと、今度は気合を入れて化粧して「宝塚っぽい」と言われたり…。会食中には、「取り皿は手に持って」と言われたかと思うと、今度は「ああ、その皿は焼き魚のお皿だから持ち上げちゃダメ」と教えられたりしました。

このようなテーブルマナーやその他細かい礼儀のことでも多く注意を受けました。小学生じゃあるまいし…。情けなかったです。中国人だからと言って、日本のマナーを知らなくていいというのは、通用しないと思いました。それで、ビジネスマナー書をガリ勉して、毎日持ち歩き、何か行事がある前には必ず復習して、まず形の真似をしていました。

そんなある日、先輩の結婚式にお招き頂き、招待状が届きました。「ここはマナー書の出番だぁ！」と喜んで、「失礼のない返事をするぞっ」と、左にマナー書、右に招待状を置き、真剣に返信に取り掛かりました。

「えっ！なんなのこの手間！」

「御出席」、「御住所」、「御芳名」の「御」や「芳」をすべて二重線で消し、表の「行」も消して「様」に書き換えなければ…。さらにお祝いの言葉も付けなくちゃ…。

ただ出席するかどうかだけの返事なのに、決まり事の多さにびっくりしました。「どうせ消すなら最初から書かなければお互いに作業が減るのに、効率悪いな」と思いました。

でも、書き終わった招待状の返信を改めて読み返してみたら、気付いたのです。

相手の方が始めに自分の名前の下に「様」ではなく「行」と書いた、その奥ゆかしさ。また、自分がその「行」を消して、「様」と書き添えるときに相手を大切に感じる気持ち。それをちゃんと出来るようにな

った自分に対する嬉しさ。ソコを本当に感じることができました。

「この一時間が『心のやりとり』を担っているんだ！なるほど！」と大発見した気分でした。

「こういう日本文化が好き♪いいねえ～」と思いました。

そう考えてみると、マナー書の中から、日本人の深い心遣いを見つけることが楽しくなりました。

例えば、祝儀袋や御香典の袋の裏の上下の紙を折って重ねるときの折り方は、幸せを受け取るか、不幸を流すか、意味を込めての決まり事だ、と知りました。受け取る相手への祈りや願いが込められた、このような「しきたり」がとても素敵だなと思って、益々知りたくなったり、自分も出来るようになりたいと思うようになりました。

マナーとして表面に見えることは、時にデジタルな情報ですが、その裏にある人の気持ち、ソコにこそ日本人が長年培って未だ文化があるのだと思いました。「ソコ、読まな！」もったいないです。

会社での「お茶出し」もそうでした。

始めは先輩からの指導を一つ一つメモするのに必死でした。「気候に合わせて器の温度を変えてね」「茶碗とその蓋の柄は合わせること」「水滴は拭いて。拭かないと、茶托と茶器がくっ付いてトラブルの元になるでしょ」「お茶出しの後は、お盆を縦にして邪魔にならないように退室しましょうね」。これらのマニュアルは、全て、お茶を楽しみながらリラックスしたムードで商談をスムーズにすすめるための気配りだったのですね。

茶器の柄は、季節の模様を目で楽しんでいただく為に合わせますが、「もし柄合わせに配慮しないでずれていたら、この茶器をデザインした方は悲しむだろうな」と今はそんなことまで考えたりします。見えないところであっても、思いを致して工夫する、ソコを知った今、お茶出しはもはや私にとって、作業ではなく、立派な仕事になりました。

私は、見えない細かいところにまで気を配って、しかも相手には気を使わせないような日本人の心遣いが好きです。表面には現れないので、外国人は気がつかないことも多いと思います。

日本人の考え方や文化は、あいまいでわからないという外国人も多いです。わからないままで終わって、モヤモヤした気持ちで日本から離れて行く人もいます。でも日本人の表現・マナー・マニュアルには、ちゃんと背景や理由があって合理的なものだと思います。そして、ソコがおもしろいんです。日本の本当の姿を見ようとする人には、いつか必ずソコが読めるようになるし、読めれば日本での生活が本当に楽しいものになりますよ。だから、ソコ、読まな！

そして、ソコを語ってくれることが出来るのは、日本人の皆さんだけなんです。

私は、会社の方に「ソコ、読まな！」と言ってもらったからこそ、形に表れない日本人の心の文化の魅力に気付くことができました。

是非みなさんも、これから出会う外国人、いや、外国人に限らず日本の若者にも、そしてもちろん私にも、もっともっと、ソコを語って伝えてください。

よろしく願いたします。